

2018年3月期第1四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：今期(2018/3月期)の業績予想を上方修正した背景は？

A：主に SE において、1Q（第1四半期、以下同様）の受注が529億円と高水準であることに加え、2Q以降もネガティブな材料はないことから、上期・下期・通期予想を上方修正しました。

Q：SE：今年ファウンドリーの投資は、前年と比べて減速感があるようだが、どう捉えている？

A：非常に強かった前年比では若干下がるかもしれませんが、微細化投資は続くと見込んでいます。

Q：SE：2017年、2018年のWFE（前工程装置市場）の見方と今後の市場見通しは？

A：2017～2018年（暦年）にかけては、マイナス要素は見当たらず、2016年比で+1桁%後半成長と、高水準を継続するとみています。

Q：SE：今期の成長の牽引役は？

A：メモリーほか、年後半にかけては、ファウンドリー/ロジックの微細化、中国市場の本格稼働が牽引すると見込んでいます。

Q：GA：前年同期比で増収、収益性も改善したが、今後の改善見込みは？

A：1Qは北米のPODを中心に売上が増加したとともに、昨年1Qに開催された drupa 展で紹介した装置とインクが売上に寄与しました。収益構造改革を進めており、在庫（国内外）の管理徹底など、一定の進捗は見られ、今後も継続していきます。

Q：FT：1Qの営業利益が9%台（FTにしては低い）だったが、この背景は？

A：製品ミックスにより、一時的に収益が悪化しましたが、2Q以降は、通常レベル（10%以上）に戻る見込みです。

Q：FT：LCD（液晶）の投資案件が減っていくが、OLED（有機EL）売上など、今後の売上イメージは？

A：前期の受注全体の30%程度がOLEDだったので、今期はそれが順調に売れ上がり、OLEDの売上構成比率は増加する予定です。加えて、新規事業も増加しており、LCDの減少分を補完する見込みです。

Q：PE：PCB（プリント基板）関連の市況は活況だが、営業利益予想が低いのはなぜ？

A：独立事業会社として4月にスタートしたため、上期には一時的な費用負担がありますが、事業自体は順調で、売上も当事業初の100億円を突破する見込みです。

備考)

HD：ホールディングス、SE：半導体機器事業、GA：グラフィックアーツ機器事業、FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業、PE：プリント基板関連機器事業

以上